

## 地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念の共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関や事務所に掲示している。また、入所時、家族等に説明している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である自立を目指して支援を行い「家族」を目標に職員一同取り組んでいる。また、現理念を基に「利用者と私達で笑顔の暮らしを楽しもう」をスタッフで新たな理念として作った。	○	新スタッフにも常にこの理念を共有してもらおうよう取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設長自ら、地域の方々と接し交流を深めながら、施設の理念を理解してもらおう様取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門は常に開放し、また、庭先には花を植え、誰でも訪問し易いよう玄関も開けている。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームを地域の方々に開放し、との交流の場として提供しているものの活動への参加はなかなか難しい。事業所行事への参加を呼び掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームを地域の方に開放することで、入居者と地域の方々の交流の場の提供につなげている。地域の方々に施設長自ら、関係を深める働きかけを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は全職員に報告し、改善に向けた話し合いも行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族交流会と運営推進会議を一緒に行うことで、全家族参加のもと、参加者の意見をサービス向上に活かせるよう実施した。	○	今後も会議を行事等にも取り入れ会議をサービス向上に活かして行きたい。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、情報交換を行いながら、共働している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を学ぶ機会があったので参加しスタッフ会議の時他の職員にも報告した。	○	学ぶ機会があれば今後も参加して行く。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、全職員に報告を行った。資料に目を通していただき、全員で虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居前、十分なアセスメントを実施し、ホームの見学も勧め、家族側と十分な話し合い、説明を行っている。解約の際も、利用者側が納得するまで説明了解を得ている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常に言葉掛けを行い、感情表現、不満、意見を引き出すよう働きかけている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	面接や連絡等があった時、どんな些細なことも情報を提供し、体調不良時には連絡を取り、健康状態を報告している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談、苦情は全職員受け入れられるような雰囲気作り、働きかけを行っている。地域、福祉関係者との合同交流会（家族交流会）等を行うことで、相談の機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置した。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のスタッフ会議を行い、意見交換を行い、合意を図っている。また、運営に反映させている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	その時の状況に合わせ、勤務の調整に務めている。また、運営者自身がサポートに入り円滑に対応できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職による影響を最小限に抑えるよう努力し配慮を行ったものの、利用者へのダメージは大きく、今後の課題となった。</p>	○	<p>新しい職員で協力し合い「家族」を目標に利用者が安心して生活できるように取り組んでいきたい。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修、勉強会は参加できるように配慮しつつもローテーション勤務体制のため参加がむずかしい。</p>	○	<p>研修に参加できるように配慮していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>勤務ローテーションに応じ参加を呼びかけるも研修への参加が難しい。本年1月より同業者との勉強会を立ち上げた。</p>	○	<p>できるだけ参加できるよう日程などを配慮し研修を取り入れていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の会話の中で悩みを聞いたり、スタッフ会議の時は、親族を深めるような配慮を行っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常に、職員と向き合い、皆の努力を受け止め、働きやすい環境作りに務めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくり話せる場所、時間を取り、本人の話を傾聴し、必要なアセスメントを十分行うことで、本人との信頼関係を築けるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点で、ホームの見学も勧め、家族側とも十分な話し合いを行い、質問に対しては、分かりやすく説明するよう心掛けている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、話を傾聴することで、家族、本人に今何が一番必要かを見極め、対応できるよう務めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、ホームの見学を勧めている。入居した際は、新しい環境に慣れていただくため、こまめな声掛けを心掛け、不安にならないよう、接している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	場に応じて、その人に出来ること、得意なことを自然な形で発揮していただけるよう、その人の役割を見出し、お手伝いしていただくことで、支え合う関係を築いている、また、昔の慣わし等、年間行事に取り入れ、入居者に教えてもらって勧められている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と情報交換を行い、家族と相談しながら対応し、入居者の近況情報、健康状態を共有することで、一緒に、本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の日常の様子を、どんな些細なことも、家族へ情報提供し、また、行事への参加の呼び掛けを行い、常に家族が本人の状況を把握して接してくれることで、より良い関係が築けるよう支援している。面接の際、居室でゆっくり会話できるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけるよう、門、玄関を開放し、気軽に訪問にして頂き、また、訪問時は、居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。行きつけの場所は、高齢に伴い、家族と相談したりするものの、行くことはない。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活を把握し、リビング等での座る配置を工夫したり、世話役の方やリーダー的な方の力を借りて、交流の場を作っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム主催の行事等などのときは、参加の呼び掛けを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活のため、ある程度流れがあり本人の暮らし方への希望は困難な場合が多いが本人の意思、希望を尊重し、出来る限り本人本位の把握に努めるよう心がけ支援している。	○ 身体的に安定な方は安全を確認したうえで自由に過ぎて頂けるよう見守り支援している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、昔の思い出話、行事、慣わしなどゆっくり傾聴し、本人を知ることで、今までの行き方、暮らしを十分把握するよう努めている。	○ 新スタッフが多いので情報交換に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の伝達、日誌、申し送りノート等で、その日の状況を全員が把握できるよう、勤務に入る前に記録等に目を通し、確認するよう努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状態を把握し、こまめなミーティングを行い、会議等で問題点（課題）を取り上げ、状況の理解と対策を話し合い、今後の介護計画の作成に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援経過モニタリング等で、3カ月1回の見直しを行っている。また、状況に応じて見直しを必要とする場合は、その都度、話し合い計画の立直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、こまめに記録を取っている。また、情報を共有するため、利用者専用の連絡簿を作り、サインをすることで全員が目を通すよう務めている。担当式で、月ごとに評価を行い、意見交換も行い、計画見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連絡を取り合い、決まった考えにとらわれず、その時々々の要望に応じた支援を心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力を得ている。今年度は保育園訪問、地域、教育機関によるボランティアを取り入れ、協力を頂いた。	○	今年度は防災訓練が1回しか実施できていないので、来年度は複数回実施できるようにしたい（消防署の協力による実践）。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	高齢に伴い、他のサービスの活用は今のところない。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡を取り合い、情報交換等の連携を図っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、納得している医療機関の利用である。また、心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる医療関係者を確保している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、認知症の人の受診の困難さを理解し、受診しやすいよう配慮くださり、入居者の状況を2週間ごとの往診で、指導や支援を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、かかりつけ医の看護師が訪問して、バイタルチェックや情報交換を行い、日常の健康管理の支援を行ってくださる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日々状況を観察し、記録し、伝達し、全職員が健康状態を把握することで、異常のサイン、変化を早期発見し、重度化しないよう、病院と情報交換、早めの処置で、入院が長期化しないよう務めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢者が多いため、家族とは、密な情報交換で、その時の方針に向けた話し合いは、その都度行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	高齢化してきており、今後の変化に備えて、どう見極め、終末期に向けた支援がどこまで取り組めるか、スタッフ会議等で検討を行っている。また、家族とも密に話し合いを行っている。	○	重度化や終末期に向けどこまで支援できるか常にその状況に応じ検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族や関係者と十分に話し合い、情報交換を行い、ダメージ防止に努めている。自宅からホームへ移り住む際は、自宅で使用していた家具を持ち込んでいただき、その人に合った環境作りに心掛けている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に人格を尊重して接するようスタッフ一同心掛けています。しかし、時には、厳しい口調になることもあり、スタッフ会議等で改善を求めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に言葉掛けを行い、話や伝えようとしていることをしっかり受け止めるよう傾聴し、相手に伝えるときは、ゆっくり分かるよう、相手にあった話し方を工夫して、本人の思いや気持ちを大切にしながら支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>活動や行事等は、職員側のペースで事を進めてしまふことがあるが、その日の、本人の体調や精神状態を十分に把握し、本人の気持ち、希望を尊重し、行動を束縛しないよう、本人のペースを大切にしている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族への呼びかけ、本人の洋服を四季に合わせて持って来て頂いたり、行事等の際は、おしゃれをしての参加である。美容の方は、2カ月に1回、ホームまで理容師に来てもらい、希望者は、散髪している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化に伴い、一緒に調理、買い物等は行っていないが、味見をして頂いたり、お膳拭きなどを手伝ってもらっている、献立にも旬の物を取り入れ季節感を大事にしている。また、利用者の健康状態に合わせた調理方法を工夫している。職員も同じ食事を一緒に楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康状態を把握し、水分量や援用のバランスに気を付け、おやつなどの量、大きさなどの工夫は行っているが、全員、同じ物を提供している。		
56	○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状況の記録をとり、個別の排泄パターンを把握し、日中はできる限り、トイレへ誘導し自立への支援を行っている。日中、夜間の下着等の使い分けもこまめに行っている。	○	ショートステイの方の排泄パターンは家族、本人に関わるケア関係者間で十分な情報交換を行い、安心して頂けるよう取り組みたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間帯は勤務体制に合わせて決まっている。しかし、その日のバイタルチェック、声掛けにて体調確認を行い、入れる順番の配慮、湯加減の希望、こまめな声掛けの誘導、介助を心掛けている。	○	年々高齢化が進む中、安全面に十分配慮し、安心して入浴を楽しんでいただくよう取り組んでいく。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人に合わせて昼夜の場所も配慮している。また、居室でゆっくりできるよう、個室になっている。日中はレクリエーションや体操等を取り入れ、生活リズム作りで安眠策を取っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人のできる役割を見だし、その場面場面で声かけ等を行い、お手伝いをお願いしている。助かったことを必ず伝え、御礼の言葉を忘れずに言うよう、スタッフ一同心掛けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要物品や買い物は、家族へ依頼したり、外出時においてお願いしてる。しかし、高齢に伴い、自分でお金の管理を行える入居者が少ない状態である。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の状況で職員間で話し合い、天気の良い日は庭先に出たり、近隣に散歩に出かけたりしている。しかし、職員の人員に限りがあり、ひとりひとりの希望に添っての外出は難しい。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>実現できていない状況である。家族の方に墓参り等はお願するものの、外出等はほとんどない。</p>	○	<p>ホーム主催での行事等の時は、家族にも呼び掛け、ご協力を得ているが、もっと社会参加や外出の機会を増やしたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも利用できる体制ではあるが、使用する方が数人だけである（電話）。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも面会にきて頂けるよう、門、玄関を開放し、面会時は、本人の居室でゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。面会者が多い。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>皆で、その問題点に取り組み、改善するケアにつながる様、家族の意見や同意を重視し、拘束の無いケアへ心掛けている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも面会に来ていただけるよう、門、玄関はいつでも開放し、日中は居室すべて鍵を掛けず生活をしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士、入居者のいる場所を伝えて、常に、把握した状態で業務にあたっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決め、取り扱いにも注意を払っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ同士、情報交換を行い、入居者の健康状態、精神状態等を把握することで、事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止は、特に重視しているものの、転倒があり、再発防止への対策を話し合った。事故防止の強化に取り組んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態のマニュアルを作成している。緊急時の対応方法も目の付く所に貼り備えてある。しかし、訓練等は定期的に行っていない。	○	緊急時に全職員が応急手当ができるよう勉強会を増やしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼し、緊急時の対応策を学んだり、緊急事態のマニュアルは作成している。また、地域の日人々の協力を得られるよう、地域に緊急連絡員を立て備えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成している。感染予防に全職員が取り組んでいる。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理は徹底して行っている。職員、入居者全員で手洗い、うがいの体制も作られ、実行している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は常に開放し、また、庭先には花を植え、誰でも訪問し易いよう玄関も開けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問者の方々に「家庭的でいいですね」とよく言ってもらえるようになった。家庭的な雰囲気、安心感を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳と、共用空間の中に設置し、居心地良く過ごせるよう工夫し、その範囲は、スタッフの目が届く位置である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んで、その人に 合わせた環境作りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常に周囲の状況を把握し、その時に応じて、空調 の調節・管理の配慮を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物の外回り、室内のあらゆる所に安全を配慮 し、手すりや滑り止め等を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	扉はいつも開放し、場所がすぐに分かる様、目印 になる飾り物をしたりして工夫を凝らしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭に、花壇を作り、長椅子を置き、入居者が楽し んで頂けるよう工夫している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域住民や地元関係者とのつながりが深まる様、施設長が率先して親睦を深めている。

地区には緊急連絡員もおおり協力体制はできており心強い。

日中はほぼ全員の入居者が皆と一緒にリビングで楽しい時間を過ごしておられ、また、そのような配慮を行っている。